

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 13010010

政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1	農業の振興	事業優先度	B		
単位施策	1	土地基盤の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	水土里情報システム利活用事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	13 農業委員会		
事業主体	雄武町		関係課	9 産業振興課		
事業指標	農地の有効利用の促進			#N/A		
事業目標	農地情報の共有化		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	◎水土里情報システムの利用	○水土里情報システムの利用	○水土里情報システムの利用	○水土里情報システムの利用	○水土里情報システムの利用	○水土里情報システムの利用	
	事業費(千円)	512	100	103	103	103	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	512	100	103	103	103	103	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	203	100	103	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	203	100	103				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 水土里情報システムの利用	(実施内容等) 水土里情報システムの利用	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】						
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	農地情報の共有化	農地情報の共有化	農地情報の共有化	農地情報の共有化	農地情報の共有化
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	100%	100%	0%	0%	0%
	全体達成率	20%	40%	40%	40%	40%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆				

事業名	水土里情報システム利活用事業	評価者 管理職 職氏名	農業委員会事務局長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	農業委員会農地係長	花松 賢一

様式1
平成26年度実施
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	農地関係情報	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	水土里情報システムの利用	
【抱える課題やニーズは】	農地関係情報が複雑化・煩雑化している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	農地地図情報及び農地関係情報を有効利用し、適切な農地管理を図る。	① 水土里情報システムの利用	目標年度	平成26年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	耕作放棄地の把握や未然防止及び農業者の農地集積を図る。		目標値	1式
			実績値	1式
			達成度	100.0%
		②	目標年度	平成26年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	水土里情報システムの利用	水土里情報システムを利用し、適切な農地管理を図った。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	耕作放棄地の把握や未然防止及び農業者の農地集積を図るため、必要な事業である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	水土里情報システムの有効利用により、農業者の農地集積が推進されるなど、適切な農地管理が図られた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	インターネットで閲覧するため、システム使用料以外の負担がなく、農務係との共同負担により情報を共有化していることから、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	水土里情報システムの利用により、農地情報等の有効活用を図るとともに、適切な農地管理を図っていることから、公平性は保たれていると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
農地地図情報及び農地関係情報を有効に活用し、適切な農地管理を図ったことから、効果的な事業実施が図られていると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
今後も適切な農地管理を図るため、農業者に対する農地利用集積の円滑化に有効な事業であり、耕作放棄地の未然防止等にも繋がることから、本事業を継続して実施していく必要がある。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止